

リオ・デ・ジャネイロ日本人学校の現状と課題



平成24年6月16日

川口市立並木小学校

岩井 正明

リオ・デ・ジャネイロ日本人学校

(平成21年度～23年度派遣)

1. ブラジルの概要

正式国名	ブラジル連邦共和国
首都	ブラジリア
面積	851万2000km ² (世界第5位、日本の約22.5倍)
人口	約1億9400万人 (2011年) 海外で最大の日系人社会 (約150万人)・・・日本との関係が深く長い 在留邦人は約6万人 (2010年)、在日ブラジル人は約23万人 (2010年)

2. リオ・デ・ジャネイロの概要

<世界的観光都市>

1763年にサルバドールからリオ・デ・ジャネイロに首都が移転。1960年にブラジリアに首都が移ってから、リオは文化と観光の中心地。観光面ではリオのカーニバルだけでなく、ガナバラ湾は世界三大美港のひとつといわれ、30mのキリスト像が立つ、標高710mのコルコバードの丘からの眺めは絶景。

<世界的犯罪都市>・・・ブラジル人も恐れる都市

外務省の危険情報「十分注意してください」が発令されており、「自分の身は自分で守る」ということが求められる。赴任者は各自「時刻・場所」を考えて行動する必要がある。リオ市内では、車両強盗、一般強盗、引ったくり、空き巣、置き引きなどの犯罪は多い。その背景には、富裕層と貧民層の貧富の差が激しく、貧民層の人々が最低限度の生活を送ることが困難な状況にあることが一因と考えられる。



3. リオ・デ・ジャネイロ日本人学校

(1) 学校名：リオ・デ・ジャネイロ日本人学校

(2) 設立者及び運営主体

リオ・デ・ジャネイロ日本人子弟教育会・・・私立

(3) 学校のステータス

ブラジル政府公認民事社団法人・・・一団体として認可（学校としては不認可）

(4) 設立年月日

1971（昭和46）年8月2日

平成23年度（2011年度）に創立40周年記念事業を開催。

4. リオ・デ・ジャネイロ日本人学校の現状（治安・移転）

<赴任1年目>

学校周辺の3つのファベラ（貧民窟：スラム街）からの銃声が1日に数回あり、銃声が聞こえる度に授業を中断し、「避難行動」を取っていた。麻薬組織間の抗争による銃撃戦や警察との銃撃戦が多くあり、流れ弾が学校に入ってくる危険性があった（敷地内では何度か銃弾を発見していた）。

6月。運動会当日の朝、児童生徒と教職員が運動会準備中、突然激しい銃撃戦があり運動会は延期。

7月。治安悪化により、リオ・デ・ジャネイロ日系協会に「一時避難」。仮校舎にて授業をスタート。児童生徒が帰宅後に、次の日の授業で使う教材を元の校舎に取りに行くという「二重生活」を送ることに。

翌年1月。治安の改善が見られず、日系協会への「一時避難」は「仮移転」へと変更。しばらく腰を据えて滞在することになった。日系協会を「学校化」するために、長期休暇中は毎日荷造りと引っ越し準備に追われた。プールがないため、地元クラブのプールの一部を借りて水泳の授業を実施。

<赴任2年目>

4月。新派遣教員がリオに到着する前日、大雨により日系協会の裏山が崖崩れを起こした。施設の一部が土砂に埋まり、「仮移転中の一時避難」を余儀なくされ、総領事館広報文化センターの施設の一部を借りて授業をスタート。

6月。崖崩れによる土砂取り除き作業等が一段落し、日系協会へ復帰。グラウンドがないため、体育館にて運動会を実施。

12月。旧校舎をリオ市に売却。2016年にリオで開催されるオリンピックに向けて、選手育成のための施設としてリオ市が再活用。



